

ちくま

No. 81
2021.8.1

長野県千曲市



七夕に願いを込めて

稲荷山公民館では、6月末から来館者の方々に短冊に願い事を書いてもらい、玄関に七夕の笹飾りを設置しました。短冊には新型コロナウイルスの終息を願う内容が多く見られました。

**特集 語り継ぎたい
わたしの戦争体験**

《主な掲載記事》

- 各館の活動報告…………… 2～3
- 特集 語り継ぎたい
わたしの戦争体験…… 4～7
- もっと知りたいふるさと…………… 8



皆で楽しく歌いましょう

受付で楽譜のファイルをいたり開いてみると、知つていい曲ばかりでほつとしました。講師の内山由香先生の優しい声で会が始まりました。最初は、身体をほぐす運動や口の筋肉を縦横に動かして発声練習をし、今回用意された12曲の歌を順に歌いました。まず、「荒城の月」を歌いました。この歌は中学の先生が大好きで、よく合唱した思い出

コロナ、コロナで、様々なイベントが延期となつていまですが、今回「心に太陽をくちびるに・歌を」の講座を企画していました。開講日を待つて○印をしていました。

受付で楽譜のファイルをいたり開いてみると、知つていい曲ばかりでほつとしました。講師の内山由香先生の優しい声で会が始まりました。最初は、身体をほぐす運動や口の筋肉を縦横に動かして発声練習をし、今回用意された12曲の歌を順に歌いました。まず、「荒城の月」を歌いました。この歌は中学の先生が大好きで、よく合唱した思い出

成人講座「心に太陽をくちびるに・歌を」
桑原 和田 はるゑ

各館の活動

報告

告

出の歌です。

次に「花」「長崎の鐘」「栄冠は君に輝く」(難しかつた!)などを歌いました。

「樂譜の記号は考えず、歌いたいように歌つて」との先生の指導に気が楽になりました。最後の曲はリクエストで「サンタルチア」を歌いました。次回がとても楽しみです。

屋代公民館
成人講座

千曲市の草木に学ぶ

屋代公民館で開かれている「ふるさと千曲市の草木に学ぶ」についてご紹介します。

この講座は、千曲市の草木の特徴を深く知り、素晴らしさを感じていただこうという内容です。講師の永井茂富先生は教員として37年間勤務した後、植物分類について学び、県カルチャーセンターや公民館などで数多くの講座の講師を務めきました。昨年はコロナ禍の影響で8月からの開講でしたが、今年は4月19日に開講式があり、全12回の講座が行われています。公民館での講義のほかに野山や河原での現地学習もあります。



実際の植物を観察する

戸倉公民館
いきいき創造学級開講式
「シャンソンと生きる」



熱唱する滝むつみさん

千曲市ですが、日々の忙しさで見過ごしてしまうことがあります。ちょっと手を休めて身近な植物を観察してみるのはいかがでしょう。

自然に囲まれ草花も豊富な千曲市ですが、日々の忙しさで見過ごしてしまうことがあります。ちょっと手を休めて身近な植物を観察してみるのはいかがでしょう。

前半の講演は、滝むつみさんが、1971年に第8回シャンソンコンクールで優勝したことときつかけに、翌年に歌手としてデビューし、国内外の著名なアーティストとの共演や、国内外でのコンサートを行った様子を、当時の貴重な写真や思い出の音楽を交えながら丁寧に解説をしていただきました。

後半は、「パリ祭」をはじめとする有名なシャンソンの歌を全10曲熱唱されました。滝むつみさんは講演の中でも「今後は活動の拠点を戸倉に移し、地元の皆さんとともにシャンソンを楽しみながら、地域にも貢献したい」と意気込みを語り、ホール内は大いに盛り上がりを見せっていました。

令和2年度 成人式 中止のお知らせ

令和3年8月14日(土)・15日(日)に開催の「令和2年度成人式」は、新型コロナウイルス感染症の収束見通しが立たないため、また、全国より成人者が帰省し、家庭内等での感染リスク発生などを考慮し、中止が決定しました。成人者の皆様には、後日実行委員が作成した「しおり」を送付します。

第19回 更埴地区文化祭 中止のお知らせ

令和3年11月6日(土)・7日(日)に開催を予定していた更埴地区文化祭は、会場の更埴文化会館が復旧しておらず使用が難しいため、今年度も中止とさせていただきます。発表・作品展示を希望される皆様には大変申し訳ありません。ご理解いただきますようお願いします。

**短詩型文学祭
作品募集**

来年デビュー50周年を迎えるシャンソン歌手の滝むつみさんをお招きし、「シャンソンと生きる」と題して2部構成で行いました。

講師に、地元戸倉出身で、戸倉創造館大ホールで開催しました。ホー

造学級は第1回の講座を、5月19日(水)に戸倉創造館大ホールで開催しました。ホー

ルで行いました。

講師に、地元戸倉出身で、戸

倉に移し、地元の皆さんとと

もにシャンソンを楽しみなが

ら、地域にも貢献したい」と意

気込みを語り、ホール内は大

いに盛り上がりを見せていま

した。

講師に、地元戸倉出身で、戸



私も早く芽が出るといいな



歌謡曲を口ずさみながら

髪が一齊に生え、可愛らしく、見るたびに和みます。

コロナ禍の中での講座やイベントが中止となり、コロナ

水に浸し、4日目には緑の芽が早く芽が出るといいな

皆さんに心に響くなつかり、毎回参加するのが楽しみです。1回目の「ジャズ演奏」はニューモダン・デューケス

幸せな気持ちになりました。2回目は「芝刈りちゃん」で園芸ボランティアの「グリーン笑すまい」の方々に作り方を教わりました。ストッキングに髪になる種と土を入れ、ぎゅっと縛り耳を作りました。目や口、まゆ毛、イヤリングも貼り付けて、それぞれ個性のある作品が出来上がり、教室中が笑顔につつまれました。

**上山田公民館
えびす学級に参加して
新山 山崎 春美**

対策が続りますが、早く以前の生活に戻ることを願つてやみません。次回以降の講座を中心としています。

埴生公民館

**すこやか学級に参加して
打沢 徳永 静子**

毎年楽しみにしているすこやか学級に、今年も参加することにしました。

5月27日(木)に参加した第

1回目の健康講座は、「笑和ビクス」歌に合わせて楽しく体を動かしましょう」と題して、健康運動指導士の小山待子先生に指導していただきました。「恋の季節」など、昭和世代の私たちにも馴染み深い曲に合わせて大きな声で歌いながら体操をしました。日々の生活の中で、懐かしの昭和歌謡曲を口ずさみながら体を動かせたら、どんなに素敵なことでしょう。

昨年に続き、コロナ禍のため、手指の消毒やマスクをしながらの開催となりました

樂しみな八幡っ子教室

**八幡公民館
八幡っ子教室始まる
八幡小学校6年 若林 遥斗**

6月19日(水)から、令和3年度の八幡っ子教室が始まりました。今年度の児童・生徒は5年生が3名、6年生が16名、中学生が1名です。昨年も来ている児童・生徒が「久しぶり！」と嬉しそうに声をかけ合い、公民館の中が笑顔でいっぱいになりました。

がんばりたい八幡っ子教室

八幡小学校5年 金子ひかり

わたくしが八幡っ子教室に入った理由は、算数がとくいじやないので先生たちに教えてもらいたかったからです。八幡っ子教室で算数を教えてもらつて、とくいな科目にしたいです。目標は計算を間ちがえないようになることと、速く計算が出来るようになることです。あと、新しいことを教えてもらつて、算数に自信が持てるようになりたいです。

そのほかには、百人一首がすごく楽しみで、2月には百人一首大会があるのでがんばりたいです。

通っているかというと、算数が苦手だからです。特に今が苦手だからです。特に今やっている「分数×分数」が一番苦手です。だから八幡っ子教室での今年の目標は苦手な「分数×分数」を得意にすることです。

ばくがこれから八幡っ子教室で楽しみにしていることは、八幡っ子教室の先生と勉強することです。そのため先生

**更埴公民館運営協議会
分館役員研修会**

役員研修会を、5月29日(土)に戸倉創造館で開催しました。

令和3年度 地区市民運動会 中止のお知らせ

各地区で開催予定の市民運動会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市公民館運営協議会で協議・検討した結果、市内統一して中止決定となりました。

皆様にはご理解いただきますようお願いします。

基調講演は、須坂市旭ヶ丘地域づくり推進プロジェクト副代表をしている東海林文子さんを講師に、「私にとっての分館活動」と題して講演をしました。東海林さんが分館主事や分館長を歴任することで、現在の地域づくり活動に繋がつていったことについて、丁寧に解説をしていただきました。

続いて、昨年戸倉公民館が、国の重要文化財の水上布奈山神社をはじめ国登録有形文化財の坂井銘釀等を巡る「北国街道下戸倉宿を歩こう！」を実施した様子をビデオで上映するとともに、現地を案内した「戸倉史談会」の皆さんからお話を伺いました。

分館役員からは、「東海林さんが分館活動をきっかけに地域づくりの活動をしていることにびっくりした」「地元にいながら水上布奈山神社本殿が国の重要文化財であることを知らなかつた」等驚きの声が上がっていました。



今日の学習計画を立ててから勉強開始

特集

語り継ぎたい わたしの戦争体験

この特集の記事は、戦中・戦後の苦難な時代を生き抜いた方々に、体験された多くのことを文章にまとめていただきたいのです。戦争の悲惨さを、戦争を知らない世代に語り継いで行く契機となれば、と始めたこの特集に、今年も原稿をお寄せいただきました。感謝を申し上げるとともに、戦争体験記をとおし、戦争の悲惨な真実を次の時代へ語り継いでいただければ幸いで

残酷な赤紙

小島 山本 正勝

私の父に赤紙がきたのは昭和19年6月のことでした。日本軍の出す招集令状に赤い紙を使用したことから赤紙と呼ばれていました。



出征前に撮った家族写真

当時の私の家族は、祖母59才、父31才、母30才、長女5才、次女4才、三女2才の6人家族でした。私はまだ母のおなかにおり、翌月の7月に誕生しました。

父は、自転車店の店主で一家の柱となり、家族を支えていました。出征にあたり、母に自転車の修理を幾日も徹夜して教えてから家族に別れを告げ出発したそうです。この時死を覚悟し、義母、妻、幼子を残し出征して行く父の心中は、今後の家族の心配と別れの辛さで、後ろ髪を引かれる思いであったことでしょう。

父の出征後、残されたのは

女と子どもばかりとなり、落胆していた家族に、男子誕生は嬉しい出来事となりました。私の名前は、戦争に勝利した。父が無事に帰還するようにとの願いが込められ、勝利の一字「勝」をいただき正勝と命名したと聞かされました。

父の最初の任地は、兵士として訓練を受けるために神奈川県に向かったとのことでしたが、訓練場所、宿舎は家族には知られませんでした。母は私の誕生を伝えるため、国事務所を経由し、手紙を出したのですが、父からの返事はなかつたそうです。

昭和19年はサイパンをはじめ南洋の島々を米軍に奪われ、日本の戦況は悪化の一途をたどっていました。「壁に耳あり、障子に目あり」との言葉が使われ、国は敵国のスパイのやうだ」と母が私を起こした時、「お父さんが帰つてきました」というだけです。戸がガタガタと大きな音がした。この時のことば、おぼろげながらも記憶に残っています。

その後、私が10才になつた頃には、母は父のことを口にしなくなりました。子ども達の成長につれ食べざかりになり、進学のこと、家族を支えることに忙しく、父への思いを心の隅にしまいひたすら働いていました。

私は成長する中で、父がないことで寂しいとか、困つても、取れない状況で大変辛い思いをしました。

母は父と連絡を取りたいことがあっても、取れない状況で大変辛い思いをしました。

私は成長する中で、父がないことで寂しいとか、困つたとあまり感じませんでした。それを感じさせない母は

成人して母の弱さ、やさしさを知り、子ども達を一人前にするため、強く振る舞つたのだとわかりました。そんな母を思う時、感謝の気持ちを深く心に刻み、未来に伝えたいと思いました。

19年11月14日、輸送船あきつ丸にて九州伊万里港を出港しマニラに向かい、翌日の11月15日、米軍の魚雷を受け沈没し、戦死しました。赤紙が届いてから、わずか5ヶ月後のことです。戦死の公報を受け、必ず帰還するものと信じていた母は、遺体や遺骨もなく、紙一枚の通知では信じることができなかつたと思われます。

私が6才の頃、夜、ガラス戸がガタガタと大きな音がした。この時のことば、おぼろげながらも記憶に残っています。その後、私が10才になつた頃には、母は父のことを口にしなくなりました。子ども達の成長につれ食べざかりになり、進学のこと、家族を支えることに忙しく、父への思いを心の隅にしまいひたすら働いていました。

私は成長する中で、父がないことで寂しいとか、困つても、取れない状況で大変辛い思いをしました。

強い人だと思っていましたが、

戦争と共に暮らした私たち

新山 田村 照一

私は成長する中で、父がないことで寂しいとか、困つても、取れない状況で大変辛い思いをしました。

父は、アケビの手榴弾を野イチゴの茂みに投げ込むとヤマモモの大木の枝にまたがった敵はイガイガがついた青い実を落とします。紫色のシダの中に倒れこむので熟した実が当たると「やられた、俺にかまうな」と叫び蕨

で昼寝をしているエビを捕虜にし、それを餌にして満潮に乗つて河口から上つてくるハ

ゼを釣るのです。お陰で体が丈夫な少国民になりました。

5年生の12月8日、ラジオが「帝国陸海軍は本8日未明、西太平洋において米英軍と戦闘状態に入れり」と放送したのを聞くと「いよいよこれで日本は石油禁輸4か国同盟をぶち破り南方に進出だ」と大はしゃぎしたものでした。

ところが中学校に通い始めた戦争の辛さを思い知らされました。まず通学距離が往復10kmになつたこと、(校則によれば10km以上は自転車通学可)、毎朝部落ごとに集まって集団登校すること(上級生の班長がいつも寝坊して途中から駆け足)、野球は敵性スポーツで禁止(ボールもグローブも手に入らない)、運動は校庭での駆け足と剣道だけ(はだしでの寒稽古はきつ



教練の正装で

2年生になると殆どの中学は軍需工場に動員されました。彼らがどんな作業に従事したかは「軍機」(軍の秘密事項)として家に帰つても話してはならぬと言われていたので知る由もありませんでした。

やがて毎日のようにB29に

かつた)になりました。英語の代わりに正式科目になつたのが「教練」です。毎週土曜

日授業終了ベルが鳴るとゲー

トルを巻いて、早い者勝ちで

外されて巻き直し、最後尾

に追いやられる。先頭から100

名には小銃が渡され「歩調取

れ(一斉に足を高く上げて歩

いてから解散。ただし後尾100

名は先頭から銃を渡されて駆

け足でトラック2周し、着剣

して敵兵に見立てた藁人形に

「突け!」を20回してようやく解放されるのです。

この他に、毎月クラス対抗

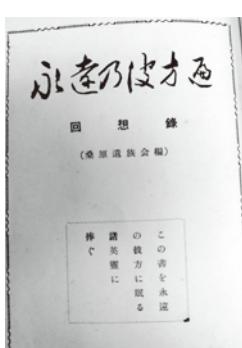
がいたクラスは最下位になる

10km)に登校したこと、(校則によれば10km以上は自転車通学可)、毎朝部落ごとに集まって集団登校すること(上級生の班長がいつも寝坊して途中から駆け足)、野球は敵性スポーツで禁止(ボールもグローブも手に入らない)、運動は校庭での駆け足と剣道だけ(はだしでの寒稽古はきつ

10km)になつたこと、(校則によれば10km以上は自転車通学可)、毎朝部落ごとに集まって集団登校すること(上級生の班長がいつも寝坊して途中から駆け足)、野球は敵性スポーツで禁止(ボールもグローブも手に入らない)、運動は校庭での駆け足と剣道だけ(はだしでの寒稽古はきつ



桑原の浄光庵にある忠魂碑



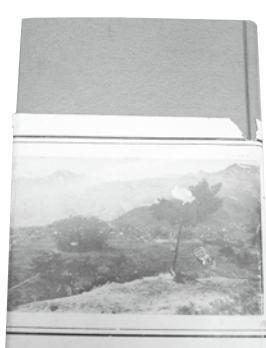
『永遠の彼方へ』扉

戦争とはかつてよく強い敵兵を倒すゲームとは全く違ひ、その家族の家を焼き、街を瓦礫に変え、子どもたちを浦に行きました。同窓会名簿に記載された桑原村から出征した軍人53名と満蒙開拓団や挺身隊の女性を含めた9名の手記になります。すると同時に少年航空訓練生(予科練)に志願して霞ヶ浦に行きました。彼の住所は今も空欄のままです。

劍道部主将の姫野君は3年生(予科練)に志願して霞ヶ浦に行きました。同窓会名簿に記載された桑原村から出征した軍人53名と満蒙開拓団や挺身隊の女性を含めた9名の手記になります。しかし今はお母さんの子として、もっと偉大な目的のため全力を尽くし……とあり、勇ましく振る舞う中に死に對する恐怖心も伺えます。

永遠の彼方に

稻荷山公民館長
徳原 敏昭



『永遠の彼方へ』表紙

平和への願いや戦争について学んだことなどにも原稿を寄せていただきましたので掲載します。

平和を願つて

台湾高雄市沖にて、23歳で

航空戦死した海軍中尉の決戦

抄を見ても、「今皇國のため

一身をささげます。そうは言

うものの生命への執着が絶対

的勢力となつてくるのをどう

することもできません」「し

かし今はお母さんの子とし

て、もっと偉大な目的のため

全力を尽くし……」とあり、

勇ましく振る舞う中に死に對

する恐怖心も伺えます。

朝鮮平壤にて25歳で戦死し

兵を倒すゲームとは全く違

ひ、その家族の家を焼き、街

を瓦礫に変え、子どもたちを

飢えさせる悲惨なものです。

美しい千曲市がいつまでも

続くとともに地球上から戦争

が無くなるように祈つてやみ

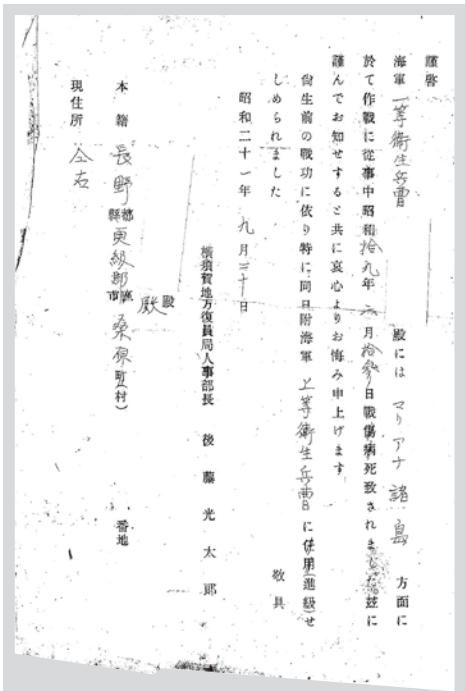
ません。

羅啓
海軍一等衛生兵雷
於て作戦に従事中昭和九年六月廿八日戰傷病致されまし
誰んでお知せすると共に衷心よりお悔み申上げます
貴生前の戰功に依り特に同日附海軍上等衛生兵雷に褒美通牒せ
しめられました
昭和二十一年九月三十日

本籍長野県東御郡御所村
現住所全く

職種賤地方復員局人事部長後藤光太郎
敬具

香地



戦死通知

長野県における満蒙開拓移民の歴史

土口 北澤 久美

令和2年度に卒業論文として作成したものと要約したものとあります。

令和2年度に卒業論文として作成したものと要約したものとあります。

た陸軍衛生伍長の遺言には、「我々の分まで働いているお父上を思う時、涙なしには我られません」「何千里離れた戦地からお父さんと呼びたい心でいっぱいです。・・・・・家名を辱めず死んで行きます」と死をもつて使命を全うしようとしている裏には、故郷を思い帰つて親孝行をしたい気持ちが満ちています。

中には17歳の若さで戦死した監視艇勤務の中区の方や、駆逐艦「橘」勤務の大田原の方もいます。

ニューギニアで27歳の長男を、フィリピン沖海戦で21歳の次男を亡くされた元町の家族もいます。

皆一枚の召集令状を受け取った時から覚悟は決まっていましたことはいえ、辛く悲しかったことと胸が痛みます。もちろん、戦争で亡くなつ

たのは男性ばかりではなく、挺身隊員として当局の求めに応じ豊川海軍軍需工場で大空襲に遭い20歳で亡くなった大田原出身の女性や、夫と共に玉碎したお母様もいます。もしご存命であれば90歳後半の方々であろう。

この世代の方々が生き残れ戦後日本の復興に努め、高度経成長期には企業戦士として再び戦つてきたのです。

終戦から77年目を迎えた日本で、今を生きる私達はこの戦争は悲惨な犠牲者を生み、その上に平和な今があることを忘れてはならないと思います。戦争で得られるものは何もない、世界へ向けて発信できないかと強く思いました。

長野県で最も中心的農産物は米と繭であった。大正14年には、収繭価格が米価格の約2倍であった。その後長野県の経済は悪化し、昭和5年世界恐慌の影響で日本も大不況となつた。日本有数の養蚕帯の長野県は、世界恐慌の影響が他地域より大きく、製糸

小学生の頃、私は「嵐」の大ファンで2006年公開の二宮和也さんが演じる「硫黄島からの手紙」を見に行き、手紙の主の「栗林忠道」の人間性と戦争に興味を持ち、松代大本宮や上田の無言館、そして父と一緒に広島へも行きまし。近所の満蒙開拓団の歴史を研究している飯島春光先生に教えをいただき自分で勉強しようと思いつめでみました。

【満洲国】とは昭和7年に日本が中国東北部に作った傀儡国家である。開拓移民の多くは全国の農村出身者であった。

長野県で最も中心的農産物は米と繭であった。大正14年には、収繭価格が米価格の約2倍であった。その後長野県の経済は悪化し、昭和5年世界恐慌の打撃は大きかった。県も、農家の経営規模を拡大するほかに過剰戸数を満洲に送り出すため、政策を打ち出した。満洲農業移民数は全国第1位の3万1264人、2位の山形県の1万3252人と比べると2倍以上であった。

昭和16年2月に埴科郷は早期入植を進めたため、住む所がなかった。そのため生活は

工場は15ヶ所倒産した。また、同年の米作は史上最高の豊作だったが、米作収入は前年の67%となり、豊作貧乏に陥った。昭和7年長野県は経済改善計画を立てるよう町村へ指導した。そこで帝国在郷軍人会と信濃海外協会が連携して村役場を動かし、満蒙開拓移民を送り出す方針を立てた。

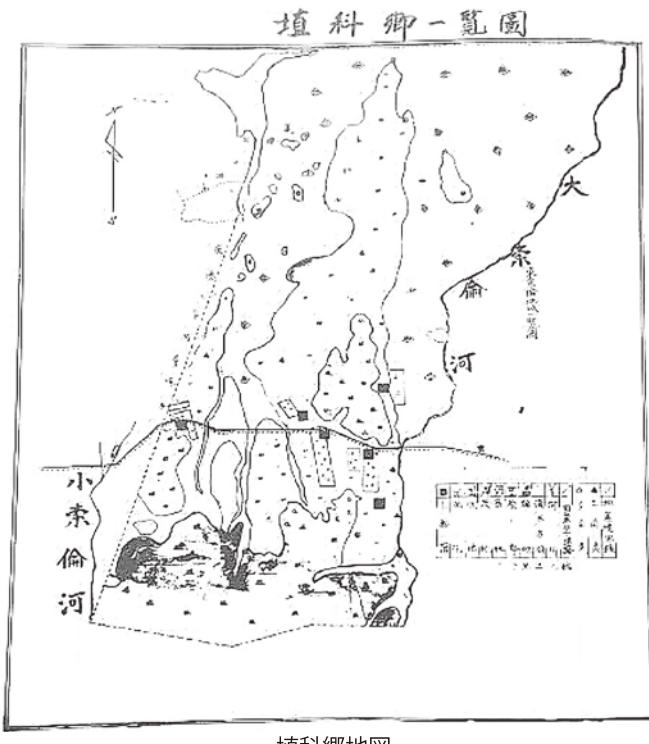
同年拓務省と陸軍省が「満蒙武装移民計画」を発表し、県は「國からの補助金と満洲拓殖会社からの融資で移民費用を貰える」「個人としては保証金30円と少しの小遣いがあれば満洲で地主になれる」という宣伝で移民を募った。歩(約20歩)の地主になれる」という宣伝で移民を募った。

埴科郡は4町13か村から成り、耕地面積は約7000ha、農家戸数は約1万戸で、一戸平均は田22.2ha、畠が0.43haで極めて零細な農家が多く、養蚕を主体としていたため、世界恐慌の打撃は大きかった。県は、農家の経営規模を拡大するほかに過剰戸数を満洲に送り出すため、政策を打ち出した。満洲農業移民数は全国第1位の3万1264人、2位の山形県の1万3252人と比べると2倍以上であった。

昭和16年2月に埴科郷は早期入植を進めたため、住む所がなかった。そのため生活は

厳しく、入植式を終えると隊員は、下水内郷の共同宿舎を借り入れて、毎日10kgの雪原を歩いて通つた。そして、地区入口に草ぶきの三角小屋を建て、建築材の伐採を始めた。3月に入ると満洲拓殖公社の無線電信係が到着し、井戸掘りや伐採の人夫も送り込まれ、4月には水田の開墾、5月にはトラクターの導入を進めていた。5月10日団長は団員誘致のために帰国したが、9人の補充先遣隊が来ただけだった。ひと月かけて井戸が掘られ、共同宿舎も完成した。5月半ばに軍委託馬30頭の搬入で手こずり管理不足で10頭を死なせたという。夏には2か月間に20人の勤労奉仕隊が送り込まれ、水田4haと畠80haを耕作したが鳥の餌となり収穫はできなかつた。

昭和17年4月には埴生小学校訓導の松尾穗積を校長とし、6人の児童が学ぶ在満国民学校が開校された。建築班は製材所を操業して第2部落を新設し、住宅16棟、炊事場、風呂場、井戸、畜舎のほか城壁も完成し、本部には仮診療所を建てた。営農班は水田4haと畠300haを耕作した。開墾も大索倫河から3.6kmの水路を開設し36haを開田、畠も第1部落に80ha、第2部落に50haを拡張したが、団長の退団や



埴科郷地図

その後、日本本土との連絡が途絶えた満洲では、国共両軍による内戦が勃発し、在留邦人は終戦1年目の冬を満洲で送ることを余儀なくされた。

その後、長春からの引揚げは望みがなくなり、また瀋陽・錦州間は鉄道や橋が破壊され輸送が困難となつた。国府軍が軍需物資輸送に使用している輸送機の帰路を利用して、瀋陽に

本隊の入植が途絶えた影響により収穫は3分の1であつた。昭和19年には若い団員が入植したので第3部落を新設し、住宅8戸を建て国民学校と診療所の本建築も完成した。開墾も第1部落に30ヶ所、第3部落に40ヶ所を拡張し、家畜も個人經營に移行して役牛20頭、溝馬20頭を増やし脱穀を行つた。

その後、日本本土との連絡が途絶えた満洲では、国共両軍による内戦が勃発し、在留邦人は終戦1年目の冬を満洲で送ることを余儀なくされた。

昭和19年には若い団員が入植したので第3部落を新設し、住宅8戸を建て国民学校と診療所の本建築も完成した。開墾も第1部落に30ヶ所、第3部落に40ヶ所を拡張し、家畜も個人經營に移行して役牛20頭、溝馬20頭を増やし脱穀を行つた。

その後、國共両軍の内戦は、國府軍が敗退の色を濃くした。このため、引揚げ実施の諸条件は日に日に悪化した。瀋陽・長春間は完全に遮断され長春からの引揚げは望みがなくなり、また瀋陽・錦州間は鉄道や橋が破壊され輸送が困難となつた。国府軍が軍需物資輸送に使用している輸送機の帰路を利用して、瀋陽に

残っている邦人の引揚げを実施した。昭和23年6月4日から7日まで49機2449人が8月7日から9日に19機で871人が瀋陽から錦州に空輸され、そこに残っていた者を

加えて列車で葫蘆島に移送され引揚船により引揚げた。昭和21年から23年までの引揚者は104万6954人にのぼつた。

日本政府は「20か年100万戸500万人移民」政策を国策として多くの日本人が満洲に渡った。その結果、長野県では、松本五十連隊と信濃教育会の指導の下に満洲移民計画が積極的に進められた。

昭和10年代前半に長野県は「試験移民」を経て、分村移民や分郷移民という形態で人々と移民を満洲に送り出した。私の出身地である旧埴科郡の状況は、応募者が少なく、幹部の人選にも苦労するなど入植までの過程は難航を極めた。また入植後も幹部の辞任や帰国が相次ぎ、県が奨励金を増額しても入植者が急増することはなかつた。

現地の満洲での生活は試行錯誤の連続であり、新たな土地での慣れない農作業の大変な苦労が伺われる。昭和20年の「根こそぎ動員」で埴科郷の男性はほとんどが応召し、また関東軍が撤去したため、

同年8月のソ連の侵攻で埴科郷の人々は実質上全滅した。

ただしソ連抑留者、青年義勇団、勤労奉仕隊の一部は帰国できた者もいた。

上條宏之「なぜ長野県・県民は満蒙開拓移民を数多く送り出したのか（満蒙開拓と自治体の戦争責任）」「信州自治研』226号、2010年。

長野県開拓自興会『長野県満洲開拓史 総編』長野県開拓自興会満洲開拓史刊行会、1984年。

長野県開拓自興会『長野県満洲開拓史 各団編』長野県開拓自興会満洲開拓史刊行会、1984年。

第6回「満蒙開拓青少年義勇軍」シンポジウムの記録集、義勇軍シンポジウム実行委員会、2016年。

斎間新三、読書村自興会『果てしなく黄色い花咲く丘が旧北満の荒野にさ迷える英靈を尋ねて』2016年。

本島進『満洲引揚哀史』慧文社、2009年。

・高橋健男『渡満とは何だつたのか・東京都満洲開拓民の記録』、(7)

・並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年。

・山本有造編『満州国』の研究』緑蔭書房、1995年。

・高橋泰隆『昭和戦前期の農村と満州移民』吉川弘文館、2000年。

・国分寺市・国立市中国残留邦人等地域生活支援事業中

国帰国者問題から学ぶ人々はなぜ「満洲」へ渡つたのか、めまぐるしく変わ

る社会情勢の中で騙されない、流されないために』』

NPO法人中国帰国者会

会報、『明天』、30号。

・高橋健男『渡満とは何だつたのか・東京都満洲開拓民の記録』、(7)

・上條宏之「なぜ長野県・県民は満蒙開拓移民を数多く送り出したのか（満蒙開拓と自治体の戦争責任）」「信州自治研』226号、2010年。

長野県開拓自興会『長野県満洲開拓史 総編』長野県開拓自興会満洲開拓史刊行会、1984年。

第6回「満蒙開拓青少年義勇軍」シンポジウムの記録集、義勇軍シンポジウム実行委員会、2016年。

斎間新三、読書村自興会『果てしなく黄色い花咲く丘が旧北満の荒野にさ迷える英靈を尋ねて』2016年。

本島進『満洲引揚哀史』慧文社、2009年。

・高橋健男『渡満とは何だつたのか・東京都満洲開拓民の記録』、(7)

・並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年。

・山本有造編『満州国』の研究』緑蔭書房、1995年。

・高橋泰隆『昭和戦前期の農

村と満州移民』吉川弘文館、2000年。

・国分寺市・国立市中国残留

邦人等地域生活支援事業中

国帰国者問題から学ぶ人々はなぜ「満洲」へ渡つたのか、めまぐるしく変わ

る社会情勢の中で騙されない、流されないために』』

NPO法人中国帰国者会

会報、『明天』、30号。

・高橋健男『渡満とは何だつたのか・東京都満洲開拓民の記録』、(7)

・上條宏之「なぜ長野県・県民は満蒙開拓移民を数多く送り出したのか（満蒙開拓と自治体の戦争責任）」「信州自治研』226号、2010年。

長野県開拓自興会『長野県満洲開拓史 総編』長野県開拓自興会満洲開拓史刊行会、1984年。

第6回「満蒙開拓青少年義勇軍」シンポジウムの記録集、義勇軍シンポジウム実行委員会、2016年。

斎間新三、読書村自興会『果てしなく黄色い花咲く丘が旧北満の荒野にさ迷える英靈を尋ねて』2016年。

本島進『満洲引揚哀史』慧文社、2009年。

・高橋健男『渡満とは何だつたのか・東京都満洲開拓民の記録』、(7)

・並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年。

・山本有造編『満州国』の研究』緑蔭書房、1995年。

・高橋泰隆『昭和戦前期の農

村と満州移民』吉川弘文館、2000年。

・国分寺市・国立市中国残留

邦人等地域生活支援事業中

国帰国者問題から学ぶ人々はなぜ「満洲」へ渡つたのか、めまぐるしく変わ

る社会情勢の中で騙されない、流されないために』』

NPO法人中国帰国者会

会報、『明天』、30号。

・高橋健男『渡満とは何だつたのか・東京都満洲開拓民の記録』、(7)

・上條宏之「なぜ長野県・県民は満蒙開拓移民を数多く送り出したのか（満蒙開拓と自治体の戦争責任）」「信州自治研』226号、2010年。

長野県開拓自興会『長野県満洲開拓史 総編』長野県開拓自興会満洲開拓史刊行会、1984年。

第6回「満蒙開拓青少年義勇軍」シンポジウムの記録集、義勇軍シンポジウム実行委員会、2016年。

斎間新三、読書村自興会『果てしなく黄色い花咲く丘が旧北満の荒野にさ迷える英靈を尋ねて』2016年。

本島進『満洲引揚哀史』慧文社、2009年。

・高橋健男『渡満とは何だつたのか・東京都満洲開拓民の記録』、(7)

・並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年。

・山本有造編『満州国』の研究』緑蔭書房、1995年。

・高橋泰隆『昭和戦前期の農

村と満州移民』吉川弘文館、2000年。

・国分寺市・国立市中国残留

邦人等地域生活支援事業中

国帰国者問題から学ぶ人々はなぜ「満洲」へ渡つたのか、めまぐるしく変わ

る社会情勢の中で騙されない、流されないために』』

NPO法人中国帰国者会

会報、『明天』、30号。

・高橋健男『渡満とは何だつたのか・東京都満洲開拓民の記録』、(7)

・上條宏之「なぜ長野県・県民は満蒙開拓移民を数多く送り出したのか（満蒙開拓と自治体の戦争責任）」「信州自治研』226号、2010年。

長野県開拓自興会『長野県満洲開拓史 総編』長野県開拓自興会満洲開拓史刊行会、1984年。

第6回「満蒙開拓青少年義勇軍」シンポジウムの記録集、義勇軍シンポジウム実行委員会、2016年。

斎間新三、読書村自興会『果てしなく黄色い花咲く丘が旧北満の荒野にさ迷える英靈を尋ねて』2016年。

本島進『満洲引揚哀史』慧文社、2009年。

・高橋健男『渡満とは何だつたのか・東京都満洲開拓民の記録』、(7)

・並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年。

・山本有造編『満州国』の研究』緑蔭書房、1995年。

・高橋泰隆『昭和戦前期の農

村と満州移民』吉川弘文館、2000年。

・国分寺市・国立市中国残留

邦人等地域生活支援事業中

国帰国者問題から学ぶ人々はなぜ「満洲」へ渡つたのか、めまぐるしく変わ

る社会情勢の中で騙されない、流されないために』』

NPO法人中国帰国者会

会報、『明天』、30号。

・高橋健男『渡満とは何だつたのか・東京都満洲開拓民の記録』、(7)

・上條宏之「なぜ長野県・県民は満蒙開拓移民を数多く送り出したのか（満蒙開拓と自治体の戦争責任）」「信州自治研』226号、2010年。

長野県開拓自興会『長野県満洲開拓史 総編』長野県開拓自興会満洲開拓史刊行会、1984年。

第6回「満蒙開拓青少年義勇軍」シンポジウムの記録集、義勇軍シンポジウム実行委員会、2016年。

斎間新三、読書村自興会『果てしなく黄色い花咲く丘が旧北満の荒野にさ迷える英靈を尋ねて』2016年。

本島進『満洲引揚哀史』慧文社、2009年。

・高橋健男『渡満とは何だつたのか・東京都満洲開拓民の記録』、(7)

・並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年。

・山本有造編『満州国』の研究』緑蔭書房、1995年。

・高橋泰隆『昭和戦前期の農

村と満州移民』吉川弘文館、2000年。

・国分寺市・国立市中国残留

邦人等地域生活支援事業中

国帰国者問題から学ぶ人々はなぜ「満洲」へ渡つたのか、めまぐるしく変わ

る社会情勢の中で騙されない、流されないために』』

NPO法人中国帰国者会

会報、『明天』、30号。

・高橋健男『渡満とは何だつたのか・東京都満洲開拓民の記録』、(7)

・上條宏之「なぜ長野県・県民は満蒙開拓移民を数多く送り出したのか（満蒙開拓と自治体の戦争責任）」「信州自治研』226号、2010年。

長野県開拓自興会『長野県満洲開拓史 総編』長野県開拓自興会満洲開拓史刊行会、1984年。

第6回「満蒙開拓青少年義勇軍」シンポジウムの記録集、義勇軍シンポジウム実行委員会、2016年。

斎間新三、読書村自興会『果てしなく黄色い花咲く丘が旧北満の荒野にさ迷える英靈を尋ねて』2016年。

本島進『満洲引揚哀史』慧文社、2009年。

・高橋健男『渡満とは何だつたのか・東京都満洲開拓民の記録』、(7)

・並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年。

・山本有造編『満州国』の研究』緑蔭書房、1995年。

・高橋泰隆『昭和戦前期の農

村と満州移民』吉川弘文館、2000年。

・国分寺市・国立市中国残留

邦人等地域生活支援事業中

国帰国者問題から学ぶ人々はなぜ「満洲」へ渡つたのか、めまぐるしく変わ

る社会情勢の中で騙されない、流されないために』』

NPO法人中国帰国者会会報、『明天』、30号。

・高橋健男『渡満とは何だつたのか・東京都満洲開拓民の記録』、(7)

・上條宏之「なぜ長野県・県民は満蒙開拓移民を数多く送り出したのか（満蒙開拓と自治体の戦争責任）」「信州自治研』226号、2010年。

長野県開拓自興会『長野県満洲開拓史 総編』長野県開拓自興会満洲開拓史刊行会、1984年。

第6回「満蒙開拓青少年義勇軍」シンポジウムの記録集、義勇軍シンポジウム実行委員会、2016年。

斎間新三、読書村自興会『果てしなく黄色い花咲く丘が旧北満の荒野にさ迷える英靈を尋ねて』2016年。

本島進『満洲引揚哀史』慧文社、2009年。

・高橋健男『渡満とは何だつたのか・東京都満洲開拓民の記録』、(7)

・並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年。

・山本有造編『満州国』の研究』緑蔭書房、1995年。

・高橋泰隆『昭和戦前期の農

村と満州移民』吉川弘文館、2000年。

・国分寺市・国立市中国残留

邦人等地域生活支援事業中

国帰国者問題から学ぶ人々はなぜ「満洲」へ渡つたのか、めまぐるしく変わ

る社会情勢の中で騙されない、流されないために』』

NPO法人中国帰国者会会報、『明天』、30号。

・高橋健男『渡満とは何だつたのか・東京都満洲開拓民の記録』、(7)

・上條宏之「なぜ長野県・県民は満蒙開拓移民を数多く送り出したのか（満蒙開拓と自治体の戦争責任）」「信州自治研』226号、2010年。

長野県開拓自興会『長野県満洲開拓史 総編』長野県開拓自興会満洲開拓史刊行会、1984年。

第6回「満蒙開拓青少年義勇軍」シンポジウムの記録集、義勇軍シンポジウム実行委員会、2016年。

斎間新三、読書村自興会『果てしなく黄色い花咲く丘が旧北満の荒野にさ迷える英靈を尋ねて』2016年。

本島進『満洲引揚哀史』慧文社、2009年。

・高橋健男『渡満とは何だつたのか・東京都満洲開拓民の記録』、(7)

・並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年。

・山本有造編『満州国』の研究』緑蔭書房、1995年。

・高橋泰隆『昭和戦前期の農

村と満州移民』吉川弘文館、2000年。

・国分寺市・国立市中国残留

邦人等地域生活支援事業中

国帰国者問題から学ぶ人々はなぜ「満洲」へ渡つたのか、めまぐるしく変わ

る社会情勢の中で騙されない、流されないために』』

NPO法人中国帰国者会会報、『明天』、30号。

・高橋健男『渡満とは何だつたのか・東京都満洲開拓民の記録』、(7)

・上條宏之「なぜ長野県・県民は満蒙開拓移民を数多く送り出したのか（満蒙開拓と自治体の戦争責任）」「信州自治研』226号、2010年。

*「館報ちくま」及び「もっと知りたいふるさと」は千曲市ホームページに掲載しています。

もっと知りたい ふるさと

81

八幡の水



上水道完成記念碑

武水別神社入口左側に「上水道完成記念碑」があるのをご存じでしょうか。表面には詩人、佐藤春夫作「水道開通記念」詩の「月雪花に好き里ハ山近くして水澄めり」とあります。裏面には松林天上年の書で「建設誌」として本村の上水道ハ多年の宿望に属し」と、上水道布設の経過と関係した多くの方々の名前が彫り込まれています。

八幡地区住民にとって昭和29年に全村に布設された「上水道」は何にも勝る「大きな喜び」であったと思います。

八幡といつても12地区（集落）があり、八幡宮周辺の平坦地部、八幡上水道の水源に近い山手部とその中間部、地形や条件が違っています。

水及び生活用水の確保はどうやっていていたのでしょうか。八幡といつても12地区（集落）となる中山間地には井戸が極少だったため、現上水道の水源となる中河川の水を活用して利用していました。これが何百年と変わらず続いた歴史であり、地区（集落）ごとに水の確保方法が違っていました。

アンケート調査から住民の皆様の「思い出」の一端を紹介します。

①水汲み、水運びは学校から帰った子どもたちのつらい日課です。

②週1・2回の近所での持ち回りは近隣の交流の場で、当時、井戸

が豊富で、県営水道加入（昭和39年、給水開始は昭和42年43年）まで井戸水の利用が多かったのです。

戦後の苦しい村財政下、村

有林の木を売り、村民総出で

水道布設工事を行い、完成し

た水道の蛇口から噴き出す

性水地帯もありました。平坦

地でも井戸を持つ家は少な

く、多くは飲用水を中心地

区内にある数少ない「共同井

戸」の水を利用していました。

他の生活用水は上流を湧

水とする流水や小河川の水

との組み合わせ利用でした。

一方、流水・小河川の上流

となる中山間地には井戸が極

少だったため、現上水道の水

源となっている湧水を地区内

各戸に水路を敷き、飲用・生

活用水として利用してきました。これが何百年と変わらず続いた歴史であり、地区（集落）ごとに水の確保方法が違っていました。

アンケート調査から住民の皆様の「思い出」の一端を紹介します。

①水汲み、水運びは学校から帰った子どもたちのつらい日課です。

②週1・2回の近所での持ち回りは近隣の交流の場で、当時、井戸

が豊富で、県営水道加入（昭和39年、給水開始は昭和42年43年）まで井戸水の利用が多かったのです。

戦後の苦しい村財政下、村

有林の木を売り、村民総出で

水道布設工事を行い、完成し

た水道の蛇口から噴き出す

性水地帯もありました。平坦

地でも井戸を持つ家は少な

く、多くは飲用水を中心地

区内にある数少ない「共同井

戸」の水を利用していました。

他の生活用水は上流を湧

水とする流水や小河川の水

との組み合わせ利用でした。

一方、流水・小河川の上流

となる中山間地には井戸が極

少だったため、現上水道の水

源となっている湧水を地区内

各戸に水路を敷き、飲用・生

活用水として利用してきました。これが何百年と変わらず続いた歴史であり、地区（集落）ごとに水の確保方法が違っていました。

アンケート調査から住民の皆様の「思い出」の一端を紹介します。

①水汲み、水運びは学校から帰った子どもたちのつらい日課です。

②週1・2回の近所での持ち回りは近隣の交流の場で、当時、井戸

が豊富で、県営水道加入（昭和39年、給水開始は昭和42年43年）まで井戸水の利用が多かったのです。

戦後の苦しい村財政下、村

有林の木を売り、村民総出で

水道布設工事を行い、完成し

た水道の蛇口から噴き出す

性水地帯もありました。平坦

地でも井戸を持つ家は少な

く、多くは飲用水を中心地

区内にある数少ない「共同井

戸」の水を利用していました。

他の生活用水は上流を湧

水とする流水や小河川の水

との組み合わせ利用でした。

一方、流水・小河川の上流

となる中山間地には井戸が極

少だったため、現上水道の水

源となっている湧水を地区内

各戸に水路を敷き、飲用・生

活用水として利用してきました。これが何百年と変わらず続いた歴史であり、地区（集落）ごとに水の確保方法が違っていました。

アンケート調査から住民の皆様の「思い出」の一端を紹介します。

①水汲み、水運びは学校から帰った子どもたちのつらい日課です。

②週1・2回の近所での持ち回りは近隣の交流の場で、当時、井戸

が豊富で、県営水道加入（昭和39年、給水開始は昭和42年43年）まで井戸水の利用が多かったのです。

戦後の苦しい村財政下、村

有林の木を売り、村民総出で

水道布設工事を行い、完成し

た水道の蛇口から噴き出す

性水地帯もありました。平坦

地でも井戸を持つ家は少な

く、多くは飲用水を中心地

区内にある数少ない「共同井

戸」の水を利用していました。

他の生活用水は上流を湧

水とする流水や小河川の水

との組み合わせ利用でした。

一方、流水・小河川の上流

となる中山間地には井戸が極

少だったため、現上水道の水

源となっている湧水を地区内

各戸に水路を敷き、飲用・生

活用水として利用してきました。これが何百年と変わらず続いた歴史であり、地区（集落）ごとに水の確保方法が違っていました。

アンケート調査から住民の皆様の「思い出」の一端を紹介します。

①水汲み、水運びは学校から帰った子どもたちのつらい日課です。

②週1・2回の近所での持ち回りは近隣の交流の場で、当時、井戸

が豊富で、県営水道加入（昭和39年、給水開始は昭和42年43年）まで井戸水の利用が多かったのです。

戦後の苦しい村財政下、村

有林の木を売り、村民総出で

水道布設工事を行い、完成し

た水道の蛇口から噴き出す

性水地帯もありました。平坦

地でも井戸を持つ家は少な

く、多くは飲用水を中心地

区内にある数少ない「共同井

戸」の水を利用していました。

他の生活用水は上流を湧

水とする流水や小河川の水

との組み合わせ利用でした。

一方、流水・小河川の上流

となる中山間地には井戸が極

少だったため、現上水道の水

源となっている湧水を地区内

各戸に水路を敷き、飲用・生

活用水として利用してきました。これが何百年と変わらず続いた歴史であり、地区（集落）ごとに水の確保方法が違っていました。

アンケート調査から住民の皆様の「思い出」の一端を紹介します。

①水汲み、水運びは学校から帰った子どもたちのつらい日課です。

②週1・2回の近所での持ち回りは近隣の交流の場で、当時、井戸

が豊富で、県営水道加入（昭和39年、給水開始は昭和42年43年）まで井戸水の利用が多かったのです。

戦後の苦しい村財政下、村

有林の木を売り、村民総出で

水道布設工事を行い、完成し

た水道の蛇口から噴き出す

性水地帯もありました。平坦

地でも井戸を持つ家は少な

く、多くは飲用水を中心地

区内にある数少ない「共同井

戸」の水を利用していました。

他の生活用水は上流を湧

水とする流水や小河川の水

との組み合わせ利用でした。

一方、流水・小河川の上流

となる中山間地には井戸が極

少だったため、現上水道の水

源となっている湧水を地区内

各戸に水路を敷き、飲用・生

活用水として利用してきました。これが何百年と変わらず続いた歴史であり、地区（集落）ごとに水の確保方法が違いました。

アンケート調査から住民の皆様の「思い出」の一端を紹介します。

①水汲み、水運びは学校から帰った子どもたちのつらい日課です。

②週1・2回の近所での持ち回りは近隣の交流の場で、当時、井戸

が豊富で、県営水道加入（昭和39年、給水開始は昭和42年43年）まで井戸水の利用が多かったのです。

戦後の苦しい村財政下、村

有林の木を売り、村民総出で

水道布設工事を行い、完成し

た水道の蛇口から噴き出す

性水地帯もありました。平坦

地でも井戸を持つ家は少な

く、多くは飲用水を中心地

区内にある数少ない「共同井

戸」の水を利用していました。

他の生活用水は上流を湧

水とする流水や小河川の水

との組み合わせ利用でした。

一方、流水・小河川の上流

となる中山間地には井戸が極

少だったため、現上水道の水

源となっている湧水を地区内

各戸に水路を敷き、飲用・生

活用水として利用してきました。これが何百年と変わらず続いた歴史であり、地区（集落）ごとに水の確保方法が違いました。

アンケート調査から住民の皆様の「思い出」の一端を紹介します。

①水汲み、水運びは学校から帰った子どもたちのつらい日課です。

②週1・2回の近所での持ち回りは近隣の交流の場で、当時、井戸

が豊富で、県営水道加入（昭和39年、給水開始は昭和42年43年）まで井戸水の利用が多かったのです。

戦後の苦しい村財政下、村

有林の木を売り、村民総出で

水道布設工事を行い、完成し

た水道の蛇口から噴き出す

性水地帯もありました。平坦

地でも井戸を持つ家は少な

く、多くは飲用水を中心地

区内にある数少ない「共同井

戸」の水を利用していました。

他の生活用水は上流を湧

水とする流水や小河川の水

との組み合わせ利用でした。

一方、流水・小河川の上流

となる中山間地には井戸が極

少だったため、現上水道の水

源となっている湧水を地区内

各戸に水路を敷き、飲用・生

活用水として利用してきました。これが何百年と変わらず続いた歴史であり、地区（集落）ごとに水の確保方法が違いました。

アンケート調査から住民の皆様の「思い出」の一端を紹介します。

①水汲み、水運びは学校から帰った子どもたちのつらい日課です。

②週1・2回の近所での持ち回りは近隣の交流の場で、当時、井戸

が豊富で、県営水道加入（昭和39年、給水開始は昭和42年43年）まで井戸水の利用が多かったのです。

戦後の苦しい村財政下、村

有林の木を売り、村民総出で

水道布設工事を行い、完成し

た水道の蛇口から噴き出す

性水地帯もありました。平坦

地でも井戸を持つ家は少な

く、多くは飲用水を中心地

区内にある数少ない「共同井

戸」の水を利用していました。

他の生活用水は上流を湧

水とする流水や小河川の水

との組み合わせ利用でした。

一方、流水・小河川の上流

となる中山間地には井戸が極

少だったため、現上水道の水

源となっている湧水を地区内

各戸に水路を敷き、飲用・生

活用水として利用してきました。これが何百年と変わらず続いた歴史であり、地区（集落）ごとに水の確保方法が違いました。

アンケート調査から住民の皆様の「思い出」の一端を紹介します。

①水汲み、水運びは学校から帰った子どもたちのつらい日課です。

②週1・2回の近所での持ち回りは近隣の交流の場で、当時、井戸

が豊富で、県営水道加入（昭和39年、給水開始は昭和42年43年）まで井戸水の利用が多かったのです。

戦後の苦しい村財政下、村

有林の木を売り、村民総出で

水道布設工事を行い、完成し

た水道の蛇口から噴き出す

性水地帯もありました。平坦

地でも井戸を持つ家は少な

く、多くは飲用水を中心地

区内にある数少ない「共同井

戸」の水を利用していました。

他の生活用水は上流を湧

水とする流水や小河川の水

との組み合わせ利用でした。